

## 平成30年度 部局自己評価報告書 (23：図書館)

**Ⅱ 特筆すべき取組 / 全学の第3期中期目標・中期計画への取組**

## 【平成28年度取組】

1. 主体的な学びと知的交流に最適な環境の整備〔中期計画 No.1, 2, 17, 43, 80〕
  - (1) 平成28年4月、全学的見地から附属図書館の学習支援事業の方針を策定し、その事業を企画・立案するため、学内教員等を構成員とした「附属図書館学習支援委員会」を設置した。同委員会では、学生の総体的な学びを促す環境構築と、グローバル・ラーニングや社会貢献を視野に入れた「学習支援ポリシー」の策定を行った。そのポリシーに基づいて、本館・分館・図書室間の連携と学内外の関連部局との協働による新たな学習支援体制を構築し、活動を開始した。
  - (2) 平成28年、工学分館にグループ学習エリアと Language Studio の機能を備えた Active Learning Square “Abelujo” (アベルーヨ) を整備し、運用を開始した。
  - (3) 留学生による図書館利用・学習相談サービス「留学生コンシェルジュ」制度を平成24年度から継続実施しており、平成28年度、以下のような活動を新たに行った。
    - ・図書館の活用方法を説明したガイドブックを、本学留学生数の上位の母語24言語で作成し、冊子やウェブサイトで広く公開した。24言語にわたる図書館ガイドブックは、他に類を見ないものである。
    - ・「留学生コンシェルジュ・ウィーク」を3回実施し、新入留学生向け図書館ガイダンスや、留学生と日本人学生や高校生が交流するイベント「グローバルセッション」を開催した。
  - (4) 高大連携の一環として、宮城県仙台第二高等学校の全1年生(約320名)に対して、英語多読法の講演と、図書館職員による文献探索手法のレクチャーを行った。
2. 図書館所蔵資料を最大限に活用した、知を還元する活動の実施〔中期計画 No.36, 80〕
  - (1) 貴重書を多数所蔵する国内有数の図書館として、貴重書閲覧室を整備して専任の係を配置するとともに、本学の大学院生等による「古典籍コンシェルジュ」制度を開始し、貴重資料の調査に着手した。
  - (2) 平成28年10月、夏目漱石没後100年にちなんだ企画展「漱石文庫—文豪が遺した創作の背景」を附属図書館で開催し、約1か月間で2,650名の来場者を得た。また、この企画展開催に合わせて、狩野文庫・古典資料書庫の特別見学ツアーを開催し、学内外から約100名の参加者を得、貴重な資料を後世に継承することの重要性をPRした。さらに、以下のような漱石文庫のPR活動を行った。
    - ・漫画家・香日ゆら氏にロゴの制作を依頼した。
    - ・附属図書館と地元の老舗和菓子店「白松がモナカ本舗」とで、「漱石羊羹」を共同企画し、同店舗で販売した。
    - ・日本近代文学館、県立神奈川近代文学館、仙台文学館の協力を得て、市街地の青葉通地下道ギャラリーにおいて企画展のPR展示を開催した。
3. 東日本大震災記録の継承と発信・活用、経験に基づく被災地支援〔中期計画 No.37, 80〕
 

震災の記録を後世に引き継ぐとともに、震災の経験を学習・研究を通して社会に活かすために収集し、附属図書館内の「震災ライブラリー」コーナーで5,200冊を利用に供した。また、インターネットでの公開許諾を得た記録資料を「震災ライブラリーオンライン版」と

して公開した。

平成 28 年 4 月に発生した熊本地震においては、「震災ライブラリー」の資料や、東北大学機関リポジトリ (TOUR) に収録している震災対応記録が、被災大学等の復旧活動に有効活用された。

また、熊本地震において、医学分館では全国に先駆け、熊本・大分両県内の大学等機関 (病院図書室・個人医院を含む) からの依頼に対し、人命救助や治療に必要な文献を複写し無料で速達送付した。

#### 4. 学術情報整備計画の促進〔中期計画 No. 80〕

電子ジャーナルの購読費上昇に対処するため、人文系の共同購入タイトルを大幅に見直し、他分野と併せて全体で 104 タイトルを削減して最適化を進めた。これにより、為替変動とは別に、1 千万円以上の購読費純減を実現し、予算の有効活用を行うことができた。

#### 5. 学生支援の充実・強化〔中期計画 No. 13〕

文部科学省による学生への経済支援策である学内ワークスタディ事業について、附属図書館では平成 26 年度から継続的に実施し、平成 28 年度は 45 名の学生を受け入れた。学生は、図書館の閲覧、企画展示、文献複写、データ登録、震災関連資料の整理などの各種業務に従事し、同事業の「学内における教育支援活動や自身の社会性向上に資する活動に従事する学生に対する給付的な支援」という目的を果たしている。

## 【平成 29 年度取組】

## 1. 青葉山コモンズ及び新図書館の運用開始〔中期計画 No. 71, 80〕

農学部講義室、図書館（農学分館）及びラーニングコモンズからなる複合施設として青葉山コモンズを整備し、平成 29 年 4 月に運用を開始した。農学部・農学研究科のみならず、学内の多くの部局の学生・教員に、学習、授業、学会等の場として利用され、農学分館もラーニングコモンズも、1 年間でそれぞれ 6 万 6 千人以上が入館した。

また、建物内に約 50 万冊収容可能な共用書庫を設置し、図書館本館や各分館等の収容能力を強化することができた。

## 2. 学習支援のさらなる充実〔中期計画 No. 1, 2, 17, 43, 80〕

平成 28 年度に設置した附属図書館学習支援委員会において策定した「学習支援ポリシー」に基づき、平成 29 年度は次の取り組みを実施した。

- (1) 教員との協働による全学教育科目「大学生のためのレポート作成入門」を引き続き開講し、授業評価 4.5 と、前年度比 0.2 ポイント増の高評価を得た。
- (2) 留学生による図書館利用・学習相談サービス「留学生コンシェルジュ」制度を平成 24 年度から継続実施している。本館レファレンスデスクで利用者からの相談を受ける業務に加えて、各種イベントの企画・運営も職員と共に行っている。平成 29 年度は、グローバル・ラーニングを支援するためのイベント「留学生コンシェルジュ・ウィーク」を 3 回実施し、合計 500 名の参加を得た。期間中の主な企画としては、多言語による新入留学生向け図書館ガイダンス（英語、中国語、韓国語、タイ語、インドネシア語、イタリア語、スウェーデン語の各言語対応、4 月期・10 月期）や、留学生と日本人学生・高校生が交流するイベント「グローバルセッション」の開催（4 回）などがある。
- (3) クォーター制導入に対応した、新入生オリエンテーション総合イベントを実施し、合計 1,364 名が参加した。
- (4) 高大連携の一環として、年間を通じて各高校からの図書館見学に対応し、本学の学習・教育研究環境に対する認知度の向上に寄与した。通常時の見学依頼 33 件・650 名に加えて、オープンキャンパスの 2 日間では 7,758 名の来館があり、その参加者数は、学内の全部局中 1 位であるだけでなく、全国の大学図書館の中でもトップクラスを誇るものである。

## 3. 図書館所蔵資料を最大限に活用した、知を還元する活動の実施〔中期計画 No. 36, 80〕

平成 29 年 11 月、夏目漱石生誕 150 周年を記念し、仙台文学館との共催により、企画展「夏目漱石 ～ その魅力と周辺の人々」を開催した。仙台市街地の公共施設「せんだいメディアテーク」で開催したことや、漫画家・香日ゆら氏によるポスターやパネルの効果もあり、地元メディアに複数回取り上げられ、会期 12 日間で 3,000 名を超える来場があった。

## 4. 学術情報整備計画の促進〔中期計画 No. 80〕

電子ジャーナルの購読費上昇に対処するため、共同購入タイトルの見直しを継続して実施し、400 万円の削減を行った。

また、大規模な電子ジャーナル・パッケージの契約にあたり、本学の購読規模を活かした交渉を 5 カ月にわたり粘り強く行った結果、3 年契約で合計 900 万円の削減に至った。一方で、利用できる雑誌タイトル数は減少していないことから、学術情報の十分な整備と経費削減の双方を達成できたと言える。

## 5. 「東北大学オープンアクセス方針」の策定〔中期計画 No. 21, 80〕

平成 30 年 3 月、本学教員の研究成果である学術論文を、東北大学機関リポジトリ“TOUR”に収録し、全世界へ広く公開することを定めた「東北大学オープンアクセス方針」を策定した。本学の伝統である「研究第一主義」「門戸開放」「実学尊重」の精神に基づき、世界最高水準の研究成果を国内外へ発信することにより、「研究センター大学」としての使命を果たすことに寄与する。